



荒川中だより

青い雲

教育目標 「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」

令和7年度 第11号
令和8年2月13日発行
村上市立荒川中学校

変わる力が芽生える2月に

校長 西村 諭

立春とは名ばかりの寒さが続く毎日ですが、日差しの中には少しずつ春の気配が感じられるようになってきました。

いよいよ卒業の季節が近づき、3年生は中学校生活の締めくくりに向けて歩みを進めています。1・2年生にとっても、次の学年を見据えて自分を整える大切な時期です。

2月の全校朝会では「自分を変えるチャンス」をテーマに、次のようなお話をしました。



『卒業式練習の様子』

3学期が始まって一か月が経ち、始業式に立てた目標に向かって取り組む中で、「思ったほど変わっていない」と感じている人もいるかもしれません。しかし、2月は一年の中でも特に“変化”が起こりやすい月です。節分や立春、学年末のまとめ、そして卒業といったさまざまな節目が重なり、短い月でありながら心が動く機会が多くあります。

まず、2月は冬から春へ向かう季節の“境目”です。節分は「新しい一年を迎える準備の日」とされ、心の中の“鬼”を追い出す日でもあります。「あとでいい」と先延ばしにする気持ち、「どうせ無理」と決めつける心、「誰かのせい」と言い訳してしまう態度。こうした“心の鬼”に気づき、追い出すことが、変わるための第一歩になります。

さらに、期末テストや生徒総会、次年度への引継ぎなど、2月は“終わり”と“始まり”が同時に見える時期でもあります。「このまま次の学年に進むのは不安だ」「ここで一度リセットしたい」という人にとって、行動を見直す絶好の機会です。

また、卒業を控えた3年生の姿は、1・2年生にとって大きな刺激になります。「自分もあんなふうになりたい」「あと1年であの場所に立つんだ」という思いが、前向きな行動につながります。短い2月だからこそ、「時間を大切にしよう」「今できることをやろう」という意識も自然と高まります。

このように、2月には、季節の変わり目、学年の区切り、先輩の卒業、そして月の短さによる意識の引き締めといった“変化を促す要素”が集まっています。だからこそ、この時期は自分を変えるチャンスなのです。

自分を変えるとは、決して大きなことを一度に成し遂げることではありません。「昨日より少し前向きに行動する」「少し丁寧に取り組む」「少し努力を続ける」。その“少し”の積み重ねが、やがて大きな成長につながります。みなさんが、この2月を自身の成長のきっかけにしてくれることを願っています。

卒業を迎える3年生、そして次の学年へ進む生徒たちを、保護者・地域の皆様と共に温かく応援していきたいと思っております。引き続き、変わらぬご支援をお願い申し上げます。